



19

ÉDITION



**fuu fujiwara**  
**虫メガネ**

小さい時によく見た夢が、神社の隣段

を上していくと履歴の板がだんだん繋ぐ  
なって、もうずっと行った島西きく  
れるっていう感じで、パンつて寝ちゃ  
れるたの。それは無茶苦茶あんなや  
うで、そのあと手に行つたの。ブカーリ  
て浮いてるわよ。気持ちいいつ  
てね(笑)。そこから地図を見てるつ  
い夢で、でも気付いたら、またお市団に  
戻つてたんやけどね(笑)。だから、いつ  
も何かを考えながらグーグルアースにな  
りやう。ヒヤリつて、地図の始まり

でも行ける(笑)。宇宙から飛びたつて日本  
に来て、だんだん和歌山、海南つくづくそ  
のままズボッ土の中に入りみたない  
(笑)。生きるのはここだけじゃない。  
この足の下にもいろんな生命があつて、無  
にいろんな生きがあるから、今私はここ  
にいる(笑)。熱帯人で生きてるつて事は  
ない。うん、だつて朝起きて起き上がるつ  
ていう時も、あっ、心臓止まつてないっ  
て思うもんね。特に最近よく思うかも、こ  
の宇宙も古いけど、体の中も一歳だから、  
結局のところ何一つ外でも駄目だし、私  
が運転を怠がさるわけじゃないから、運  
転に無意識のところで身体が動いてて、腰  
に呼吸してる、呼吸するぞって絶対思わ  
へんし。

以前ね、植物園で虫メガネで観察しよ  
う。つていつのをやつった。目隠がまわる  
んだよね、被虫を見えワークショット。  
いろんな植物をめくらひの入ったボンブス  
の上に置いて、それをすると中の葉脈とか  
浮き出で見れるから、植物の細かいところ  
までが見えるわ。昔とか、それつて全部  
にありしよ。例は手を切つても同じじよう  
にあるし、植物の葉脈と人間の血流とか  
一輪やなと思つ。うん、どうか触ると木  
とかが枯れちゃうし、どうかに寄りつけて  
しまうとか、皮を剥ぎ取つてなつたら枯れ  
木も一緒に枯れちまう。何でも一輪や  
んみたいなつて、ゴミもゴミだけど地球。

地球は私、あなた、でもゴミも地球、あ  
れ? 分からん(笑)。結局は一輪、一輪  
だよつて。分けてしまふのが好いや分  
断になつて、それが好きじやないや  
うな人、黄花と反対の中でも、黄成の人には反  
対の人の意見聞きかないし、反対の人も責  
めの立場かないことが多いけど、で  
もこの世に弱いあつたら、ちょっとこの間  
こうかなつて感想のかなとか。もうちょっと  
と樂らかく近づいて行くところを考えたり  
します。

そうね、生け花の先生の言葉は結構思い  
出す、やっぱりずっと裏面しか見てなかつ  
た自分がいたから、見るつて楽しくして、植  
物の街でそのままいたな。何でそんなこと  
に生が生えるのか。種の種もそれそれ  
やし、ほんま面白い。結局のところ私が作  
ら何も作らないのがいいかもつていいら  
い。けれど作能するのは好きやし、もう出来  
苔茶瓶貼する。

本当はめつちや都合に連れ。だから「二  
度と和歌山に帰るのかー」と出てついた  
けど、和歌山や「まいりあまやね」ってい  
みやすいよね。自然と離れては生きていけ  
ないから、やっぱ火から離れたことでお  
かしくなつてなんかつて思つた。今は  
電気で家暖やかやうけど、やっぱ火水  
士…そこが買つてるもんつて運営者であ  
るところが、もうこれかが、そういうことも考えて  
るかもしないけど、基本的に面白い  
としたし。面白いモノを作りたくて、ど  
んな時もフワツとした運営を大切にして  
いまうと、力が抜けた感じ、ちょっとその運営が楽  
らかくなる感覚がありたいと思つ。

EDITION

SCAN ME  
fuu fujiwara  
サザエ誕生日祭@saagoflower Jabo



僕、落ち葉が好きなんです。僕としての人生とかやってることとかって言つたら、ちゃんと何かの肥やしには成りたいなど、出会つた人たちの。そのために技術も磨きたいし、絵も描いていたい。ホビ族の言葉で「おれは歌だおれはここを歩く」って言葉があるんですよ。安くグッとくるでしょう。結局、人ってそういうもんなんやろうなと思って。

## ウッキー富士原 肥やしになる

全てタイミング。もう全部そうなんですね。台風が来るとか、来ないとか。ここで台風が来るとかってね。やつ  
ばそうなんやなって。受け入れていく。よく分かんないけど、受け入れなあかんっていう頭が僕は先行するんで、  
その答え合わせするのに一番前に落ちるのが作品作りなんですね。あの時、言われたのはああいうことやつたんやつていうのは、絵を描い  
ているか、物語っている時にしか消化できない。だから物を作らずにいる期間が長ければ長いほど、作つていると  
バーンて出てくるんで。結局ね、多勤なんですね。少し歳を取つたんでその場で話し聞いている風にはできるけど、やっぱ違うことを考えてい  
たりとか、心ここにあらずっていうのは多かったりとか。でも一貫二貫削るのもつてあるじゃないですか。例えば『お前阿呆やな』って言われる。  
その言葉が大きな流れの中の決めセリフで阿呆やなではなくて、バッパバッぱっていう流れの中で阿呆やなっていうワードが浮遊する一定期間  
があったとするじゃないですか。ほんまに大失敗して阿呆だったら分かりやすいんだけど、認め言葉のような阿呆やながつたり、阿呆もいろ  
んなシチュエーションであるじゃないですか。なんであん時あんなんやつたんやろうな。なんか阿呆が続いているなとかって。それが怪我でも  
いいやけど、右手ばかりとか。そういうちょっとトゲが心に刺さったように感じでいてるもの。答え  
は作品作つたら出てきて、で、その次の課題も出てくるみたいな。それは生きていく上での指標というか物語であつたり  
とか、作品の次のパターンやつたりとかでもあるんですよ。醜いアヒルの子の話なんです、僕の作品作りって。





作品を作って誰かに見て貰うっていう状態にクオリティを高めていく時に、どうしても気に入らない作品ができるんですよ。絶対恥ずかしいっていう醜いアヒルの子が生まれるんですよ。でもその子を破り捨てたいとか、これ大失敗と思うんやけど、絶対取って置くようにしてて、やっぱ醜いアヒルの子なんやけど、相手とかやり終わって次が見え始めた時、その最初に掛けした格好悪いなと思ったものに原型があるんですよ。これや！っていう。だから失敗は成功のもととなっていう言葉。昔からあるんやけど、僕は失敗とか失敗じゃないんやなって、ただ自分が気づかない。知識がない。見る目がないだけで物事を判断してて、ある程度集中して何かやって一歩登って振り返ったら見えるみたいな。足搔くの好きなんですね。失敗する必要性とか。この前もテーブル作ってて、一番大事な時に同じ失敗をゴンゴン繰り返して、もうこんなん誰やって木を新しく買ったんです。買に行って、持ってきて、そこに置いた瞬間に、えっ！何してたんやろみたいな、これじゃないと思って。失敗したところがそのテーブルの個性になって、みんなそこがいいって言ってくれて。だから失敗したらいいじゃんって思うよね（笑）。

僕の世の中を見る指標っていうか、「UUちゃんにもプロポーズの時に言ったんですけど、覚えてないかも知らんけど、面白いとこに行くのには面白い船に乗らないといけないんや。それは決して買ったりとかして得るものではいけないんですね。車に乗って行けるところは車で行けるとこやし、船に乗っていけるところは海の向こう。じゃあ面白い、奇跡というか、不思議な世界に行こうと思ったら何に乗るかでね。車の運転を極めて神の声を聞くアイルトン・セナもいるけど、自分で何かを作るっていうことが僕の船で、革だったり刃物やったりがオールみたいな感じで、その世界に入っていく乗り物で面白い島に辿りつける。だから辞められない。

自分が生まれたところがあんまり好きじゃなくて、欲しいものとか面白いところも外やと思って、どんどん外に出て行って、日本も出たくなって日本も出で、新しいものとか不思議なものは常に外にあると思っていたのが、実は旅を繰り返すたびに、身近な良さを気づいためにわざわざ外に行っていたみたいなところがあったんで、新しいものとか当たり前のものに対して、真っ新な目で見なくなっていて、知らないとこに行った時に、素直に心がリセットされて物事が見えるから、そこが新鮮に見えていただけでね。国外から戻ってきたら、その嫌だったものは嫌じないみたいだ。嫌やったものがすごく懐かしいものに味わい深いものに。近いと駄目なんですね、きっと。太陽とかも近かったら焼けちゃうじゃないですか。イカロスじゃないけど、太陽に近づいていたら燃えちゃったっていう。その距離感を見失わずに、常に自分の気持ちになるように物事を見たら、世界は不思議に溢れているというか、見たつもりで見てないことが多いじゃないですか。特に自分のことなんか知っているつもりで、友達のことも知っているつもりで、こんなことで居るんやとか。自分の奥さんこんなことで泣くんやみたいな。だから常に一箇所から、自分の主観でしかものを見てないっていうところをもうちょっと柔らかくしたら、世界は不思議に溢れている。そういうことを伝えたくて。もちろんゴミとか物が古くなっている状態っていう美しさもあって作品作りしているんですけど。身近なものの見方っていうものを変えるっていう気持ちで作品を作っている。それは人に對しても。

この大きな流れで命のリレーをしてくれるわけじゃないですか。どこかでね、僕のご先祖さんが命を結束にしていたら、僕いないわけじゃないですか。ご先祖さんがその集落を大切に守ってなかったら、その集落は絶滅していたかもしれないっていうのをフト考えた時に、今、生きている人たちが絶滅しないというか。せめて自分の好きな人の子供たちが大人になった時に「なんでウッキさん、あの時やってくれなかったの」っていうのは言われないなっていう。七世代先ってインディアンは言うんやけど、そういう先のことを考えた時に、なんかやっておきたいし、最初に失敗する人間でいたいみたいな。あんな阿呆いてたっていう。それが僕の表現なのかなって、芸術家として名乗る。だから目に見える前の人の、もう一回向こうのことを勝手に強制概念に思って作っている部分もありますね。

そこら辺にあるようなもんでええやん。絵だから額に入れようじゃなくてもいいやん。絵の具使わなくてもいいやんみたいなのを迷回しに書いたいのあります。約束そんなに守らんでもいいっていうか、そんなガチガチせんでもええやん。そういうことを思って貰えたらっていうのが一番分かりやすいんでゴミっていうのもある。ただ単にその何かが何かを終えたものの醸し出す雰囲気が好きっていうものもあります。僕の子供の頃は気持ち悪いと言われてましたもん。それがいつの間にかお金で買えるようになった。子供の時、拾ってきた机とかをして使っていたら、額に捨てられそうになっていましたもん。なんでそんな汚いもん。小遣いやってない子みたいなことすんな！みたいな。でも僕は「好きなんやもん。捨てんといで」書いて。綺麗なスーパー保もいいんやけど、煙の隅で見つけたざらざらになったスーパー保がかっこいいですよ。宝石も神羅だけど、川底で拾ったコカコーラの「コ」の白いところだけが残った破片とかって言葉では言えない、美しいんです。それを並べたりとか、それで何かを作りたいんです（笑）。

（2022年9月・和歌山県にて）

EDITION

SCAN ME  
ウッキー富士原  
富士原ウッキー(@Facebook)



TEL FREE

artist  
ウッキー富士原

EDITION No.19 2022年12月発行 発行人／佐藤大輔 発行／株式会社 実紀出版社 〒164-0013 東京都新宿区西早稲田4-25-4 TEL 03-5332-1700 Contact / edition@akabaku.co.jp

※無断複写、複製、転載の一切を禁ずる。

artist  
**fuu fujiwara**

Special thanks

藤田道彦

Produced by

喜びの共有、創造し

宅配広告社



22.9.11